

茶病害虫防除情報

令和5年3月3日

【第15号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

主要病害虫の生態と防除シリーズ (12)

チャトゲコナジラミ

発生と防除のポイント

侵入害虫で、2004年に京都で初発生し、数年で全国に被害地域が急速に拡大した。本県では2012年に屋久島で初発生し、現在県内のほぼ全域に発生が拡大している。中国では茶の最重要害虫の1種である。年4～5回発生し、幼虫で越冬する。多発すると圃場一面成虫が乱舞し、摘採作業等の妨げになる。また、幼虫が排出する多量の甘露で、煤病を誘発して光合成機能を阻害し、樹勢を低下させる。侵入初期は侵入阻止や拡大防止対策がとられていたが、現在では一般の防除対策がとられている。

薬剤防除は主にふ化後若齢幼虫期に、他害虫との同時防除を兼ね、5月上旬（クシカハカラムシ）、8月上中旬（秋芽ウカ、スリップス等）に行われる。また、シルバストリコバチが天敵として有望で、普及定着し、発生・被害防止に効果を上げている。

発生生態

害虫の種類	カメシ目：コナジラミ科
発生状況	侵入害虫（2004年京都府）全国に発生拡大 本県2012年初発（屋久島）
形態と診断	寄生・加害特徴：主に裾葉 葉裏に寄生 甘露により「煤病」併発 成虫：雌1.3mm 紫黒色 斑紋あり 幼虫：0.2～1.3mm 黒色 楕円形 卵：0.2mm 黄色 長楕円形 葉裏に産卵
被害の様子	葉裏に幼虫が無数寄生するが吸汁の影響は少ない 幼虫寄生で排出する甘露で「煤病」激発、茶葉を覆い同化作用の低下で樹勢に影響する。 成虫の飛翔乱舞により、摘採など農作業の妨げになる
生態・生活史	越冬：裾葉裏で幼虫越冬 一番茶摘採期頃に羽化する 産卵：新葉の葉裏に産卵（1雌平均26卵）卵期間 10～20日 ふ化・幼虫：幼虫期間25～50日 越冬幼虫は5ヶ月位 4齢経過 成虫：寿命2～4日 新葉に群がる（写真） 生活史：年3～4回発生 成虫発生は4月下～5月上旬 6月中下旬 8月中下旬 10月下～11月旬 寄主植物：茶 ツバキ サザンカ カキ ヒサキ シミ など

発生消長	本県における防除を要するふ化幼虫発生は5月上中旬、7月上中旬頃 8月中下旬 11月上旬の4回である
発生条件	県内何れの地域の茶園に分布拡大しているが、発生の拡大は苗木移動 周辺の寄生ツバキ科植物からの気流に乗って飛来など 乾燥した条件で、発生しやすいと思われる
天敵	有力天敵はシルベストリコバチ、その他テントウムシ類、クサカゲロウ、昆虫病原性糸状菌

防除方法

- 防除のポイント
- ① 第1世代ふ化幼虫発生期の5月上中旬はクワシロカゲラムシと同時防除する。
 - ② 第3世代ふ化幼虫発生期の8月中下旬はウカ、スリップスと同時防除する。
 - ③ 越冬幼虫となる第4世代幼虫発生期の11月上中旬に防除する。
 - ④ 裾葉、葉裏寄生のため散布方法に留意し、400 L/10a程度散布する。
 - ⑤ 若齢幼虫期散布の効果が高いので、適期散布を行う。
 - ⑥ 有力な捕食寄生性天敵シルベストリコバチを有効に活用する。

具体的防除方法

薬剤防除方法

防除時期	農薬名	希釈倍数(倍)	使用基準	備考 注意事項
第1世代幼虫発生期 (一番茶後) (5月上中旬)	アプロートエースフロアブル	1000	14日前2回	クワシロカゲラムシと同時防除が可。 JAS有機栽培園使用可。
	アグリメック	1000	7日前1回	
	カスケード乳剤	4000	7日前2回	
	ミルベノック乳剤	1000	7日前1回	
	タニカッターフロアブルなど	2000	7日前1回	
第2世代幼虫発生期 (7月上中旬)	アグリメック	1000	7日前1回	三番茶期と重なるため更新園等 で防除する。 コルトは成虫期に散布する。 天敵シルベストリコバチに影響のない 薬剤を選択する。
	カスケード乳剤	4000	7日前2回	
	ウララ DF	1000	7日前1回	
	コルト顆粒水和剤	2000~3000	7日前2回	
	タント水溶剤	2000	7日前1回	
ディアナ SC など	2500~5000	前日 1回		
第3世代幼虫発生期 秋芽生育期 (8月中下旬)	アグリメック	1000	7日前1回	ウカ、スリップス等他害虫と同時防除 する。
	ガンバ水和剤	1500	14日前1回	
	コテツフロアブル	2000	7日前2回	
	コルト顆粒水和剤	2000~3000	7日前2回	
	ディアナ SC	2500~5000	前日 1回	
	ハチハチ乳剤	1000	14日前1回	
グレーシア乳剤 など	2000	14日前1回		

第4世代幼虫発生期 (秋整枝後) (11月上旬)	アプロート・エースフロアブル	1000	14日前2回	・ハダニの発生が多い場合はアグリメック、タニグッター、アグリメックなどを選択し、同時防除する。
	アグリメック	1000	7日前1回	
	タニグッターフロアブル	2000	7日前1回	
	ディエナ SC	2500～5000	前日1回	
	ミルベノック乳剤 など	1000	7日前1回	
越冬幼虫期 (12～3月)	トモノル S	50～100	10～3月—	・本県はこの時期の効果は低い ・マシン油を散布は赤焼病の発生を助長するので留意する。
	スプレオイル	50	10～3月—	
	ハーベストオイル	50～100	10～3月—	
中切更新後 (5～6月)	トモノル S	100～150	5～9月—	・新葉のない時期に散布する。
	ハーベストオイル	100～150	5～9月—	

チャトゲコジラミ 写真



成虫



新芽に蝟集した成虫
(触れると乱舞する)



葉裏に寄生した幼虫



幼虫寄生後誘発された「すす病」
(光合成を阻害し、生育に影響)



天敵 シルベストリコバチ 成虫